

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | スタッフ会議等で理念に沿った取り組みを行っているか？確認しあっている。 | 「住み慣れた地域の中で、自分らしさや誇りを持ち、安心と安らぎのある暮らしをサポートする」という理念が掲げられている。毎月1回開催されるスタッフ会議で管理者と職員は日々のサービスを振り返りながら理念の共有と確認をし、実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 幼稚園、中学校、小学校との交流や敬老会への参加をしている | 幼稚園の祖父母参観コンサート、小学校運動会、中学校文化祭に入居者が招待されている。地区の秋祭りにはホームまで神輿が訪れている。踊りや三味線など定期的に訪問していただけるボランティア、中学生の職場体験の受け入れなど地域とのふれあいは多種多様で盛んに行われている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 毎年、中学生の職場体験学習を受入れ認知症に対する理解を足元から発信している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年、区長さんに参加していただき、活発な意見が交わされた。 | 入居者家族、区長、地域包括支援センター職員、介護相談員、民生委員、ボランティア、ホーム職員が参加し、活動内容報告や今後の予定、「新型インフルエンザ」などその時点での課題として話し合わなければならない事項などを内容として意見交換している。参加者の日時の変更が多く開催することが難しい場合もあり、年3回の開催にとどまっている。 | 運営推進会議参加者からの意見等はとても貴重なので、予め議題・内容等を示し、都合等で参加出来ない方からも文書等で意見や助言を頂けるよう工夫し、定期的に会議を開催されることを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議で、市町村職員とサービスの取り組み内容を報告したり意見交換をしている。 | 運営推進会議での市の職員との話し合いや、毎月1回市の事例検討会やケアマネージャー会議に担当職員が参加している。運営や介護のことで相談するなど良好な関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の自動ドアは、中から開かない状態になっている。事故防止の為 | 玄関ドアは夏場や暖かな日など職員と一緒に行動できる時間帯には開放したり開錠している。外出傾向の入居者には見守りに徹し、チームプレーで所在を確認している。 | 玄関ドアについてはゆるやかでも良いから段階的に開錠の時間を増やせるよう、定期的に検討されることを望みます。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待を防ぐためにも、孤立することがなく、誰もが寄れる風通しの良い環境にしている。 | | |

グループホームこだま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者は研修の機会があり学んでいる | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や介護保険の改正時には家族宛に通知するなどして理解してもらっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 外部評価の家族アンケートを参考にしたり、いつでも要望に応えるようにしている。 | 意思表示をされる入居者には気づいたことや不満がないかどうか直接聞くこともある。家族等の来訪時には気軽に意見、要望が言えるよう雰囲気作りに心がけている。利用料の請求書を送付する時に担当職員から家族への「おたより」を同封し、意見、要望を書いて返送して頂くようお願いをしている。頂いた意見、要望等は検討し運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議等で職員との意見交換や提案を聞く機会を設けている。 | 職員の体制も30才代から60才代と幅広くそれぞれの立場で意見や提案を行っている。月1回のスタッフ会議は勿論、その場で気づいたことを気軽に管理者につなげている。管理者から職員への話しかけもあり風通しの良い関係が築かれている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が働きやすい環境にしている。個々の努力や仕事に対する意欲を、処遇改善交付金に反映する。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修の機会を持ち、職員一人一人がサービスの質の向上に向けて日々努力している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会等で相互訪問や職員の交流を行っている。又研修会も行っている。 | | |

グループホームこだま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前に本人の情報を得る。又体験入所を試みている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 主に、長期入所の方なので特に不安や困っていることの訴えはない。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 主に長期入所の方なので、該当しない。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | それぞれ役割分担の中で共に行う関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族と連携を密にし、クリスマス会には家族と利用者さんと職員が一体となって共に支える関係作りを目的に行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 加齢と共に馴染みの場所が途切れてしまうこともある。せめて馴染みの人との関係づくりの働きかけに努めている。 | 入居者が馴染みであった場所に一年に1度は出かけ、名物の「手打ちそば」などを食べて帰るようにしている。道中、兄弟の住んでいる所、家の近くのことなど話題が付きにくい。ホームの「こだま便り」に家族からの投稿欄を設け家族の思いを掲載するなど、様々な形でホームの活動に参画していただけるよう工夫をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 互いに支え合って生活され毎日が生き生きとしている。きめ細やかな声かけも行っている。 | | |

グループホームこだま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じ相談援助している | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | その人の思いをケアプランに反映している。又定期的に見直しを行っている。 | 家族などから各入居者の生活暦を聞きそれぞれの時代背景を把握している。仮装をして自分の好きな歌、「愛国行進曲」や「愛馬進軍歌」、「見上げてご覧夜の星を」を独唱するなど音楽療法は入居者の心に響き、忘れていた時代、遠い昔を思い出し日々の活力となっている。言葉が旨く出なくても歌を歌ったり、楽器を奏でることで思いのたけを表現する入居者もいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方を把握しながら穏やかな生活を送れるように支援している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の様子や変化は記録に残し、スタッフは常に把握しながらその人のできることに働きかけている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員がそれぞれ担当制にし、スタッフ間でも意見交換するなどして、本人と相談をしながらケアプランを作成している。 | 担当者が本人、家族から思いや意向を聞いて、他の職員とも話し合い計画作成担当者によって介護計画を完成させている。見直しは定期的に行い状態に変化があれば家族と相談して現状に即して変更している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録や実践結果を基にして、介護計画の見直しを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の要望をその時々に応じ支援を行っている。 | | |

グループホームこだま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 定期的にボランティアの受入を行っている。小学校の運動会や中学校の文化祭。幼稚園等と交流を行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的な受診により健康管理が出来る。病状の変化に対してはその都度家族に報告している。 | 入居者はかかりつけ医で受診している。緊急の時はホームの協力医療機関を利用している。また週1回ホームの協力医療機関の看護師による医療相談、助言もある。家族の都合のつかない場合には職員が通院の付き添いをしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常の気づきや変化は適切に記録している。1回/Wの訪問看護師に相談や助言、健康管理を受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 可能な限り本人の情報を詳しく提供すると共に退院時には、入院中の病状や退院後のケアについて助言を受けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 十分家族と相談し方向性を考えている。又、関係者と連携を図り支援に取り組んでいる。 | 重度化や終末期に向けた指針はあり、家族等からの要望もあるが、今のところ看取りは行なわれていない。家族と相談し事業所として対応できる範囲で早期に方向性を検討している。看取りについての職員教育への取り組みについては今後の課題として上げている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急蘇生法を、2年継続して指導を受けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に通報訓練、消火訓練、避難訓練を行っている。 | 消防署に防火訓練計画を出し指導をいただきながら、消火、通報、避難訓練を入居者も参加し行なっている。同日に救急救命法の講習も実施され、AEDの操作方法などの訓練も受けている。今までの訓練でも異なる出火場所を想定し方が一に備えている。今年中にスプリンクラーを設置する予定である。 | |

グループホームこだま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 自尊心を傷つけない様トイレ介助、入浴時等、言葉遣いには配慮している。 | 入居者への接遇や対応については細心の注意を払っており、気づいたことは日誌に記入をしたりスタッフ会議に持ち寄り、言葉遣いや対応についての話し合いをしている。トイレ介助や入浴介助の際の言葉かけなど、プライバシーを損ねないケアの実践にも取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人一人に何をしたいか？利用者さんの希望を優先しています。食事、外出、行事など。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々ゆったり過ごしていただきおまかな日課になっているが、体調や天気など自然に沿って無理のない範囲で支援しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節におおじて、本人が好まれる服装を選び、着用していただいています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 好みのものを取り入れ、色合いも考慮し利用者さんと一緒に準備、片づけをしています。 | 男性入居者が料理の盛られた器をお盆にのせ配る姿が見られた。パンをちぎり静かに味わいながら口に運ぶ入居者、バックに流れる「雪の降る町を」の歌に合わせ頭で調子をとりながら満足そうに食事する姿も見られた。近隣の方からいただいた野菜や果物、入居者の好む郷土食である手作りのニラせんべいなどが食卓に上ることもある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養のバランスや食べやすいように工夫をしている。毎食後、お茶時コップ1杯以上水分摂取している。必要に応事、水分調整をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 2回/WIは、洗浄剤を使用し、磨けているかチェックを行っている。 | | |

グループホームこだま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレでの排泄の自立は基本と考えているが、その人の身体レベルに応じ夜間のみのおムツやポータブルトイレの使用もしている。 | 24時間排泄記録表が使用され、入居者一人ひとりのパターンを把握している。全介助の方、夜間のみオムツ使用の方など各入居者に合わせ支援している。夜間も本人の要望により自立のための支援に応じているが、日中は特に自立支援に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜中心の食事や運動をするなどにより便秘予防に心掛けている。24時間排泄記録によりコントロールが出来ている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 曜日と時間帯は決まっているが夏季には入浴回数を増やすなどしている。入浴剤を楽しむ工夫を行っている。 | 入浴は入居者全員が楽しみにしている。大きな給湯式風呂で、浴槽の中まで手すりが付いており、移動がしやすいつくりになっている。多い時は気の合った入居同士4人で一緒に入り温泉気分を楽しんでいる。リフト浴も完備している。ゆず湯、菖蒲湯、バラ風呂など季節を感じさせる工夫も行なっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1日の流れが規則正しい習慣に定着されている。午睡も2時間あり十分な休息が取れている。夜間も皆さん安眠されています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 副作用については、十分な観察を行い、主治医と連携を図り諸検査などで病状の管理をし、内服薬の増減を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 得意な部分を生かせるよう、その時々で役割を分担している。畑仕事、食事の盛り付け、裁縫など。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気、利用者の状態に応じて、散歩、買い物、畑仕事等に出かけている。又、家族の方との外出等、協力しながら支援している。 | 時間をかけての敷地内の散歩や買い物など個別支援を行なっている。車椅子が2台載る10人乗りワゴン車で紅葉狩り、バラ園、花見、日帰り温泉入浴など近隣市町村の名所めぐりなどを行っている。外食で回転寿司へ出かけることもある。 | |

グループホームこだま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の管理が困難の方が多いため、所持していない。買い物するときなどは、自分でお金を支払うような支援は行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 職員対応ではあるが…家族へはいつでも連絡ができるように努めている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用スペースは日当り、眺望共に良好な場所にあり、ベランダには花や鉢物を置き、四季を感じて頂けるよう、楽しめるよう工夫している。 | テラスに通じる仕切り戸は大きな一枚の透明ガラス戸である。多目的ホールからはそのガラス戸越しに飯綱山を大きく望むことができ、冬の柔らかな日射しが射し込んでいた。入居者もこのホールで終日過ごしており、季節に合わせた行事やフウセンバレー、軽体操などを行っている。3歳の男児を交えてハンドベルを一心に振る入居者の姿が見られた。台所には「荒神さん」を祀るなど昔からのしきたりも重んじている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人一人の性格や、身体レベルを勘案し、座席の配置をしているため、落ち着いて、穏やかに生活されている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時から、馴染みの家具や使い慣れ親しんだものを置くことにより混乱されることもなく心地よく生活されている。 | 入居者の居室は同じ造りではなく、少しずつ間取りが変わっている。ホテルの1室を思わせる豪華さが漂い、鏡台、テレビなど自分の居心地よい居室づくりがされている。自宅からの荷物が持ち込まれており、ベッド使用の方もいれば布団の方もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 自室の表札、トイレの表示板もあるが皆さん自分の家のように生活されている。又バリアフリーになっており、安全な環境が整っている。 | | |